

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治版**



平成15年8月16日号
発行 かながわ1区支部
編集長 平木 茂

No. **5**

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

いま注目の「マニフェスト」とは…… 候補者ひとりひとりが発表すべきか？



事務所のスタッフと先日、「マニフェスト」について話し合いました。「総選挙の立候補者も、ひとりひとりが有権者にマニフェストを示すべきだろうか？」というのが、そのテーマでした。結論はあとでお伝えしますが、いま、このマニフェストという言葉が注目を集めています。皆さんも新聞やテレビで接していらっしゃると思いますが、その言葉の説明から始めたいと思います。

マニフェストは、政権公約とか政策綱領とか訳されていますが、いわゆる「選挙公約」のことです。ただ、これまでの公約と違うのは、公約がとかくきれいごとの羅列で終わる傾向があるのに対して、マニフェストでは、具体的な政策を ①いつまでに ②どういう方法で ③なにを財源として——を明示して発表するところに特徴があります。

第2次大戦後のイギリスで始まり、欧州各国では総選挙の際に政権党と野党がマニフェストを発表しあって有権者に支持を求めるといった形が一般的になっているとのこと。イギリスの前回総選挙(2001年)のときの政権党・労働党のマニフェストは、44ページにも達する詳細なもので、一般の書店でも販売されたそうです。

わが国では、4年前の統一地方選で一部の知事候補が初めてマニフェストを発表して注目を集めました。今年4月の神奈川県知事選では、当選した松沢成文さんがマニフェストを導入したことは、皆さんのご記憶に新しいことと思いますが、ただ、その後実現できない政策もあるなどマニフェストの実行には苦しんでいるようです。

さて、マニフェストに対する私の結論ですが、知事や市長のような行政の首長選挙とちがいで、総選挙のように、政党と政党とがそれぞれに政策目標を掲げて有権者に信を問う選挙では、政党自体がマニフェストを発表して有権者のみなさんに提示するのが、マニフェストの本来の理念にかなっていると考えます。もちろん私を含めて政治家には、そのひとなりの政策目標があります。それを大切しなければならないのは言うまでもありません。とって、同じ政党に属する候補者ひとりひとりがマニフェストを発表したら、皆さんは混乱してしまうでしょう。

もうひとつ大切なことは、期限を示しての公約となれば、政策は衆院で3年とか、参院で5年とかの短期的なものに限定されてしまいますが、中には10年、20年かかる課題もあるということです。目先のことだけでなく、こうした長期的な政策も忘れてはいけません。

間もなく、私のビジョンと党のマニフェストという形でみなさんに分かりやすくお知らせしたいと考えています。





ポスターに込めた「松本純6つの顔」③

このポスターには、私の顔(デカイ顔ですいません)のほかにも6枚の写真が印刷されています。実はそのひとつひとつに、私の思いを込めました。第3回は、左側のまん中、子どもたちに囲まれた私の写真です。私の思いは、こうです。

少子化問題に、有効な手立てを見いだし続けていきたい!

いま日本は、「少子高齢化社会」といわれています。

私が政治家を志したのは、何よりも《福祉の向上》が願いでしたので、この問題には特に力を入れて取り組んできました。

ただ高齢化問題が、まだまだ不十分とはいえ、介護をはじめ対策が徐々に整いつつあるのに対して、少子化問題には、いまだに有効な手立てが少ないように思います。

この問題を解決するには、若いママやパパに「子どもを生む喜び」「子どもを育てる生きがい」を感じてもらうところから始める以外にありません。国がそれにこたえることができるとしたら、それは彼らが子育てにがんばられる社会環境を整えることです。

何がいちばんの問題なのでしょう? 地元で働くママに聞いてみました。

「やはり保育園(所)の問題ですね。横浜は他の都市に比べて、待機児童の数が圧倒的に多いといわれています。運よく入園(所)できたとしても、長時間保育や保育内容が、たとえば東京などに比べて十分ではないのです。それが実感ですね」

国や地方自治体も、真剣に取り組んではいます。設置基準の緩和によって、最近では駅の構内にも保育所が次々に誕生していますが、働くママにとって、これは朗報です。

まず保育園(所)の数を増やす。同時に働くママのほんとうの必要にこたえるサービスの向上が急務です。

そのためには、幼稚園は文部科学省、保育園(所)は厚生労働省という、国のタテ割り行政も改めなければなりません。

「がんばれ、子育て!」。いま、若いママやパパの視点に立った対策を急がなければなりません。



まつもと じゅん プロフィール



昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ。本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師。製薬会社を経て、(有)松本薬局に入社。現在は代表取締役。本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り組む。平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める。平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選。専門を生かして医療・福祉・介護・年金などに全力投球。平成12年の総選挙で次点落選。現在は自民党衆議院神奈川1区支部長として国政復帰奮戦中。